

アルコール依存症の人は全国で推計八十二万人に上り、「酔っぱらいにからまれた」「無理やり酒を勧められた」など酒で嫌な思いをしたことのある「酒害」経験者は三千四十万人もいるとみられることが十九日、厚生労働省研究班の初の全国調査で分かった。

日本人は酒に寛容で「酔っぱらい天国」と言われるが、研究班主任の樋口進・国立病院機構久里浜アルコール症センター副院長は「これだけ困っている人がいるのを踏まえて対策を進める必要がある」と話している。調査は昨年六

「酒害」経験3040万人

月、全国の成人男女三千五百人を対象に実施。回答した二千五百四十七人（73％）に飲酒状況や酒害経験の有無などを尋ねた。

この一年間に一回以上飲酒した人は男性84％、女性は66％だった。アルコール依存症については世界保健機関（WHO）が診断基準を設けている。「絶対に飲むまいと決めたのに飲み始めたことがある」「飲酒のために仕事や友人らとの付き合いをあきらめたことがある」などの質問によって調べた結果、依存症の割合は男性が1・9％、女性0・1％。年代別総人

依存症は82万人

厚生労働省研究班
初調査で推計

口に当てはめると、日本全体で八十二万人と推計された。酒に関連した何らかの被害を受けたと答えた人は男性31％、女性26％。日本全体では三千四十万人という数字になった。

「加害者は職場の人（10％）、友人知人、父親（各7％）が多く、職場での被害の内訳（複数回答）は「からまれた」（49％）「飲酒の強要」（36％）「暴言・暴力」（24％）が目立った。職場や家庭でのこうした経験で生き方や考え方に影響を受けた人は全体の13％いた。